安全より儲け優先のＪＡＬ

被解雇者・ベテランを職場に戻せ

羽田事故から安全を考える

緊急院内集会

ＪＡＬ被解雇者労働組合（ＪＨＵ）と福田昭夫衆議院議員（立憲民主党）は4月11日、衆議院第一議員会館で「羽田空港衝突事故を振り返る4・11緊急院内集会」を開催した。

ＪＡＬ安全問題軽視を追求し、争議解決を誓う

集会は、ＪＨＵの山田純江書記次長の司会で始まり、主催者挨拶で、福田衆議院議員は「羽田衝突事故を二度と起こしてはならない。超党派の応援団として、ＪＡＬ闘争の勝利まで支援して行く」と力強く訴えた。

続いて、鈴木圭子ＪＨＵ副委員長から「事故は突然起きるものではない。解雇前は職場で、安全に対する改善要求など取り組んだ。稲盛和夫会長（当時）は、『一兆円の内部留保金を作ってから安全を』と言っていた。ＪＡＬの安全軽視がここに表れている」と述べた。

管制官が足りない

報告と問題提起で、操縦士や管制官、客室乗務員の立場から見た問題点や再発防止策などをそれぞれ語った。

昨年9月まで管制官を務めた佐藤比呂喜国土交通労働組合副委員長は、国家公務員の定数削減で管制官が不足していると指摘した。「食事中も無線を聞きながらの対応している」とともに休憩ができない実態を告発。「人間は必ずミスをする生き物」として、管制官の増員などを訴えた。

元操縦士の山崎秀樹ＪＨＵ書記長は、日航機の操縦席正面の窓にある計器情報を透過表示するヘッドアップディスプレイについて「夜は見えにくく、パイロットは視線や焦点の異動が難しい。安全を確保する上で教訓にしなければいけない」と指摘した。

乗客の命を守る

元客室乗務員の宝地戸百合子ＪＨＵ副委員長は、今回は旅客に犠牲者が出なかったのは奇跡的だ。航空法の基準では乗務する客室乗務員の数が乗客50人に1人で、非常口の数より少ない点を指摘。「緊急時には人命を守ることが最優先」として、基準の見直しを求めると同時に「航空従事者」としてのライセンス制にすべきだと主張した。

集会に駆け付けた国会議員は福田昭夫衆議院議員・川田龍平参議院議員（立憲民主党）、山本朋広衆議院議員（自民党）、高橋千鶴子衆議院議員・山添拓参議院議員（共産党）、高良鉄美参議院議員（沖縄の風）の6名。その他、大椿裕子参議院議員（社民党）らの秘書11名も参加した。

最後に山口宏弥ＪＨＵ委員長が「実にいい加減な国の対応や国際基準から遅れていることを国民に訴えていくことが重要である。職場での、闘いなくして安全なし、安全なくして労働なし、労働なくして生活なし。もの言う労働者こそ命と安全を守る力〝労働組合の出番〟だ。解雇撤回の闘いも14年、早期解決に向けて全力を上げる」と結んだ。（Ｋ）

空の安全とJAL争議の全面解決

4・7水戸駅宣伝行動

ＪＡＬ宣伝に参加の労働者

「空の安全とJAL争議の全面解決を支援する茨城の会」は4月7日、茨城・水戸駅前で宣伝行動を行った。

行動には、茨城の会会員をはじめ、政党、支援の労働組合、JAL被解雇者労働組合（JHU）の鈴木圭子副委員長（客乗闘争団団長）、加藤浩子書記次長、金澤壽元全労協議長など、総勢35名の参加でJALの不当解雇とJAL争議の早期全面解決を訴えた。

茨城の会は、①同郷の中田弥生さんを支え激励する、②JHUと行動を共にして世論（市民、民主団体、政党、議員）に訴え解決促進を図る、③地域課題の交流を図り連帯を強めることを目的として昨年12月に発足した。

茨城の会は、民主団体や政党、議員らに訴えるとともに、会員拡大や地区本部結成に尽力しながら、初めての水戸駅宣伝行動を取り組み、多くの仲間の参加で、所期の目的を達成することができた。

宣伝行動終了後、水戸市内で参加者による意見交換を行い、「国鉄闘争を闘ってきたOさんやTさんの挨拶には凄さを感じた」「チラシ配布の人もゼッケンを付けた方が良い、署名があった方が良い」「いかに当事者に近づくか、それこそが支援から連帯へと繋がる」「同郷の中田さんを支える。JAL争議を解決する。統一戦線・労働者の連帯・護憲の組織強化のために、一つのグループではなく、みんなでやろう」など感想が出された。

JAL争議は「労働者の権利」と「空の安全」を守る闘いだ。茨城の会はJAL争議勝利の日まで闘い抜く決意を新たにした。

（茨城ユニオン・羽生光雄）